

「特殊音節の平仮名指導」の研究
1年生で躓きの多い特殊音節の平仮名を、わかりやすく教える指導法

勇 和代
Isami Kazuyo

要旨

国語科のカリキュラムでは、1年生の1学期に「平仮名」を教え終わることになっている。この平仮名には、「清音」はもとより「特殊音節」の平仮名や助詞も含まれる。清音についてはどの子もほぼマスターできていくが、特殊音節は大変難しい。なぜなら平仮名清音は、文字と音は一対一対応が基本であるが、特殊音節は文字と音の対応関係が複雑になるからである。8月と11月に調査をしたところによると、8月に比べ11月にはどの子も特殊音節の書き取りで成果が見られた。MIMで紹介されているプリントで補充学習し定着を図った成果である。また授業では、音を「視覚化」したり「動作化」したりしたこと、筆者が考えた特殊音節平仮名マスタービンゴ（ループリック）を使ったこと等で特殊音節の平仮名の習得率を上げることができた。

キーワード：1年生、平仮名、特殊音節、ループリック

I. 問題提起

筆者は今までに1年生を10回担当してきた。これらのクラスで、1年生の1学期終了時には、清音46文字の達成率は読みが95%、書きが87%であった。そして、1年生の終わりには、清音についてはほぼ100%読み書きできるようになっていた。

しかし特殊音節の平仮名は大変難しく、1回の学習では習得できない児童が多い。なぜなら、平仮名清音は文字と音は一対一対応であるが、特殊音節は違う。例えば、「拗音」は2文字で1モーラ（拍）であり、「促音」は1拍休止となるが、休止も1拍と数えるなどがある。このように文字と音の対応関係が複雑になることにより難しくなるのである。

ところが、教科書のカリキュラムでは1学期中に特殊音節の平仮名を教え終わるようになっている。「ねこ」と「ねっこ」や「おじさん」と「おじいさん」のように、促音や長音の読み書きは難しく、できなかったときにお直しをさせたり「覚えておきなさい」と言ったりして過ごしてしまうことが多い。

そこで、これら特殊音節を持つ平仮名をどの子も楽しくわかりやすく習得できるように、子どもの実態調査結果に配慮しながら、特殊音節の指導法を工夫し提案する。

II. 研究の方法

1. 研究の対象

- ① 調査対象：1年生 28人
- ② 調査期間：2023年の8月と11月
- ③ 調査方法：「読み書きが苦手な子どもへの〈つまずき〉支援ワーク」（*文献1）を使った調査

2. 研究の手立ての詳細

1) 「ひらがな単語聴写テスト」を使った書き取り

1学期に通り特殊音節を持つ平仮名を教えているがどれほど定着しているのかについて、夏休み明けすぐに調査をした。使用した本は「読み書きが苦手な子どもへの〈つまずき〉支援ワーク」である。以下の30個の言葉を教師が読み、聴写するテストを行った。

また、MIMプリント（*文献2）等で指導をした11月下旬に、同じ問題で再調査をした。

① くま	② うさぎ	③ あいさつ	④ はっぱ	⑤ おもちや	⑥ おに	⑦ どんぐり	⑧ しいくこや	⑨ おとうさん	⑩ じょうず	⑪ きつね	⑫ ごはん	⑬ しんかんせん	⑭ すいぎゅう	⑮ しょうぎ
⑯ かぜ	⑰ えんそく	⑱ べんぎん	⑲ きょうしつ	⑳ うんどうじょう	㉑ いっしょ	㉒ ちよっぴり	㉓ じどうしゃ	㉔ しゃつくり	㉕ ほっきやく	㉖ きつね	㉗ はらっぱ	㉘ しゅっぱつ	㉙ きょうそう	㉚ どうごししよ

図1. 平仮名テスト

⑩	⑨	⑧	⑦	⑥	⑤	④	③	②	①
じよ7 う7 ず2	お1 ど1 う6 さ1 ん4	し1 い6 く1 こ2 や1	ど2 ん4 く2 り1	お1 に1	お1 も1 ちや5	は1 つ8 ば3	あ1 い1 さ1 つ1	う1 さ1 ぎ2	く1 ま11
⑭	⑬	⑫	⑪	⑩	⑨	⑧	⑦	⑥	⑤
う1 ん4 ど2 う6	き1 よ7 し1 つ1	べ3 ん4 ぎ2 ん4	え1 ん4 そ1 く1	か1 ぜ2	しよ9 き1	す1 い1 きぎ7 う7	し1 ん4 か1 ん4 せ1 ん4	ご2 は1 ん4 ん4	き1 つ1 ね1
⑳	㉙	㉘	㉗	㉖	㉕	㉔	㉓	㉒	㉑
ど2 つ8 こ1 い1 しよ5	き1 よ7 そ1 う6	しよ9 つ3 つ1	は1 ら1 ば3 ば3	ぎゆ9 と1	ほ1 ら1 つ8 きよ5 く1	しよ9 つ8 く1 り1	じ2 ど2 う6 しや5	ちよ9 び3 り1	い1 つ8 しよ5

図2. 単語の音節分類

2) チェック項目

1. 清音
2. 濁音
3. 半濁音
4. 撥音
5. 拗音
6. 長音
7. 拗長音
8. 促音
9. 拗促音

15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	こ ご を か き ま し よ う <input type="checkbox"/> 年 <input type="checkbox"/> 組 <input type="checkbox"/> 番
し	す	じ	ご	き	し	た	し	と	お	お	は	お	う	く	
よ	れ	ん	は	つ	ま	ど	い	ん	に	も	っ	い	ま	夫	
っ	が	か	ん	ね	り	お	く	ぐ		ち	ば	ま	ぎ		
き	ん			ま	ま	ご		り		ア		っ			
		ん		ず	ん	か									
30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	
ど	き	し	は	ぎ	ほ	し	じ	ち	い	う	ま	や	え	か	
っ	ん	ん	ら	ん	ん	ん	ん	よ	っ	ん	ん	ん	ん	せ	
こ	う	う	う	う	う	う	う	び	し	ど	う	ぎ	ぎ		
い	え	ば	ば	と	く	り	り	り	ま	う	ん	ん	ん		
と	う	っ								い	っ				
よ										ま					

図3. 8月のテスト解答例

3) テストの採点方法

- ① 単語の音節分類に基づいて間違いをチェックする。
 - ② 9種類の中で間違いがあれば、どの音節の間違いかを確認し、集計表に正の字を書く。
 - ③ 30個の言葉すべてをチェックしたら正の字の右に誤数を書く。
 - ④ 1. 清音から9. 拗促音までの総誤数と、5. 拗音から9. 拗促音の特殊音節誤数を書く。
 - ⑤ 全員の採点が終わったら、特殊音節誤数の平均点を出す。
- 4) 間違いの多い特殊音節の文字

8/28

1年組 (No.)		1. 清音	2. 濁音	3. 半濁音	4. 撥音	5. 拗音	6. 長音	7. 拗長音	8. 促音	9. 拗促音	総誤数	特殊音節誤数		
1			-	1			-	F	-	F	9	8		
2			-				-	T		T	6	5		
3		F ³	-	1	-	1		-	1	F ³	14	9		
4		-	1				-	1		-	1	T ²	5	4
5		F ⁴	T ²	T ²	-	1	F ³	F ³	F ⁴	F ³	27	18		
6		TE ²	-	1	-	1	F ³	TE ⁵	TE ⁵	T ⁴	29	20		
7			-	1			-	1	-	1	6	4		
8			-	1			F ³	T ²	F ³	F ³	17	16		
9			-	1							1	0		
10						-	1			-	2	2		

図4. テスト採点

5) 個別のアセスメントシート

次に、個別のアセスメントシートを作った。

* 単語聴写の間違い分析表									
	1年組 番氏名 A								
	①清音	②濁音	③半濁音	④撥音	⑤拗音	⑥長音	⑦拗長音	⑧促音	⑨拗促音
間違い		かせ →かせ				おとうさん →おとろさん	しゅうず →しよーず	ほきよく →ほきょく	ちよびり →ちよび
誤数	0 / 50	1 / 12	0 / 15	0 / 10	0 / 15	1 / 15	3 / 15	1 / 15	3 / 15
割合	0 %	8 %	0 %	0 %	0 %	20 %	60 %	20 %	60 %
* 間違いの特徴									
総誤数 9 特殊音節誤数 8									
長音 おとうさん 促音 ほきよく ←書けていない									

図5. 個別アセスメントシート

図4を見ると、特に5.拗音より後の特殊音節を持つ平仮名の書き取りを間違っている児童が多いことがわかる。

また、個別のアセスメントシートではAさんは、②濁音⑥長音⑦拗長音⑧促音⑨拗促音を間違えている。特に⑦拗長音と⑨拗促音の間違った割合が60%で、理解不足となっている。また、間違いは以下のようにになっている。

じょうず→しょーよず、すいぎゅう→すいぎゅ、うんどうじょう→うんどうじょ、ちょっぴり→ちょぴり、しゃっくり→しゃくり、ぎゅっと→きゅっと

6) 回答と結果 (8月)

どの言葉を書き間違えているか、クラス全体の回答をまとめた。

表1. 言葉の調査 8月28日 %は誤答率

	言葉	誤答人数	割合		言葉	誤答人数	割合		言葉	誤答人数	割合
1	すいぎゅう	18人	64%	11	じどうしゃ	10人	35%	21	おとうさん	4人	14%
2	うんどうじょう	18人	64%	12	どっこいしょ	10人	35%	22	はっぱ	3人	10%
3	しいくごや	17人	60%	13	いっぱい	9人	32%	23	かぜ	3人	10%
4	ちょっぴり	16人	57%	14	はらっぱ	9人	32%	24	ごはん	2人	7%
5	しゃっくり	15人	53%	15	しょっき	8人	28%	25	えんそく	2人	7%
6	ぎゅっと	14人	50%	16	きょうしつ	7人	25%	26	うさぎ	1人	3%
7	じょうず	13人	46%	17	おもちゃ	6人	21%	27	あいさつ	1人	3%
8	ほっきょく	13人	46%	18	しんかんせん	5人	17%	28	きつね	1人	3%
9	しゅっぱつ	13人	46%	19	ぺんぎん	5人	17%	29	くま	0人	0%
10	きょうそう	11人	39%	20	どんぐり	4人	14%	30	おに	0人	0%

「すいぎゅう」は、牛の種類だということを教えてから書かせた。また「うんどうじょう」は毎日使う言葉だが、半数以上の児童が間違えている。「じょう」と伸ばせなくて「うんどうじょ」との誤答が多い。また、拗促音が特に難しい。「ちょっぴり」「しゃっくり」「ぎゅっと」「ほっきょく」「しゅっぱつ」の5つは誤答率が高い。

7) 回答と結果 (11月)

8月と同じ問題で11月に再調査した結果である。

表2. 言葉の調査 11月25日 %は誤答率

	言葉	誤答人数	割合		言葉	誤答人数	割合		言葉	誤答人数	割合
1	すいぎゅう	11人	39%	11	じどうしゃ	3人	10%	21	おとうさん	3人	10%
2	うんどうじょう	11人	39%	12	どっこいしょ	8人	28%	22	はっぱ	0人	0%
3	しいくごや	13人	46%	13	いっぱい	5人	17%	23	かぜ	1人	3%
4	ちょっぴり	6人	21%	14	はらっぱ	1人	3%	24	ごはん	1人	3%
5	しゃっくり	7人	25%	15	しょっき	5人	17%	25	えんそく	1人	3%
6	ぎゅっと	9人	32%	16	きょうしつ	3人	10%	26	うさぎ	0人	0%
7	じょうず	11人	39%	17	おもちゃ	2人	7%	27	あいさつ	0人	0%
8	ほっきょく	8人	28%	18	しんかんせん	2人	7%	28	きつね	0人	0%
9	しゅっぱつ	8人	28%	19	ぺんぎん	0人	0%	29	くま	0人	0%
10	きょうそう	6人	21%	20	どんぐり	1人	3%	30	おに	1人	3%

このプリントは、言葉を読んで○をつけるだけなので子どもたちに好評であった。
 また、自分で答え合わせをし、正誤のフィードバックがすぐにできるので正しい言葉を定着させることができた。
 長音や拗音が混ざっており、特殊音節を総合的に学び直すことができたと思われる。
 また、毎回点数を控え、特に難しいと思う児童には特殊音節の言葉のカードを読んでもらったり、一緒に言葉を書く練習をしたりした。
 これらの効果が11月の再テストに表れたと思われる。

2. 特殊音節マスタービンゴ（ループリック）の提案（2024年度）

教科書では、5月半ばから、特殊音節の指導が始まる。そこで、2024年度は、子どもたちが少しでも興味を持って取り組めるように、特殊音節マスタービンゴ（ループリック）を提案し、実施した。

<small>とくしゅおんせつ</small> 特殊音節 ひらがな マスタービンゴ 1ねん（ ）																				
<small>B→A→AAのじゃんにするとかんたんだよ。できたら○をつけよう。AAに○がついたら1ますクリア。いくつビンゴがそろうかな。（ ）</small>																				
①かきとかぎ（だく音）P.40～P.41 「」や「」のつくことばをますたーしよう。  <table border="1"> <tr><td>B</td><td>きょうかしのことばをよむ。</td></tr> <tr><td>A</td><td>きょうかしのじをノートにうつす。</td></tr> <tr><td>AA</td><td>じふんてことばをさがしてのーとにかく。（10こ）</td></tr> </table>	B	きょうかしのことばをよむ。	A	きょうかしのじをノートにうつす。	AA	じふんてことばをさがしてのーとにかく。（10こ）	②「が」「は」をつかったぶんづくり P.42～P.43 ぶんをよもう。ぶんをつくらう。  <table border="1"> <tr><td>B</td><td>きょうかしのぶんをよむ。</td></tr> <tr><td>A</td><td>きょうかしのぶんをノートにうつす。</td></tr> <tr><td>AA</td><td>じふんて ぶんを 3つずつのーとにかく。</td></tr> </table>	B	きょうかしのぶんをよむ。	A	きょうかしのぶんをノートにうつす。	AA	じふんて ぶんを 3つずつのーとにかく。	③ねごとねっこ（そく音）P.44～P.45 「っ」のつくことばをますたーしよう。  <table border="1"> <tr><td>B</td><td>きょうかしのことばをてをうってよむ。</td></tr> <tr><td>A</td><td>きょうかしのことばをのーとにうつす。</td></tr> <tr><td>AA</td><td>じふんてことばをみつけてのーとにかく。（10こ）</td></tr> </table>	B	きょうかしのことばをてをうってよむ。	A	きょうかしのことばをのーとにうつす。	AA	じふんてことばをみつけてのーとにかく。（10こ）
B	きょうかしのことばをよむ。																			
A	きょうかしのじをノートにうつす。																			
AA	じふんてことばをさがしてのーとにかく。（10こ）																			
B	きょうかしのぶんをよむ。																			
A	きょうかしのぶんをノートにうつす。																			
AA	じふんて ぶんを 3つずつのーとにかく。																			
B	きょうかしのことばをてをうってよむ。																			
A	きょうかしのことばをのーとにうつす。																			
AA	じふんてことばをみつけてのーとにかく。（10こ）																			
③しりとりあそび しりとりをしなごらことばあそびをたのしもう。  <table border="1"> <tr><td>B</td><td>ひとりで5こ</td></tr> <tr><td>A</td><td>ふたりで10こ</td></tr> <tr><td>AA</td><td>ぐるーぶで20こ</td></tr> </table>	B	ひとりで5こ	A	ふたりで10こ	AA	ぐるーぶで20こ	④おもちゃとおもちゃP.82～P.83 ねじれた音のことばをますたーしよう。  <table border="1"> <tr><td>B</td><td>きょうかしのことばをてをうってよむ。</td></tr> <tr><td>A</td><td>きょうかしのことばをのーとにうつす。</td></tr> <tr><td>AA</td><td>じふんてことばをみつけてのーとにかく。（10こ）</td></tr> </table>	B	きょうかしのことばをてをうってよむ。	A	きょうかしのことばをのーとにうつす。	AA	じふんてことばをみつけてのーとにかく。（10こ）	④おばさんとおばあさん（ちょう音）P.48～P.49 のぼす音のことばをますたーしよう。  <table border="1"> <tr><td>B</td><td>きょうかしのことばをてをうってよむ。</td></tr> <tr><td>A</td><td>きょうかしのことばをのーとにうつす。</td></tr> <tr><td>AA</td><td>じふんてことばをみつけてのーとにかく。（10こ）</td></tr> </table>	B	きょうかしのことばをてをうってよむ。	A	きょうかしのことばをのーとにうつす。	AA	じふんてことばをみつけてのーとにかく。（10こ）
B	ひとりで5こ																			
A	ふたりで10こ																			
AA	ぐるーぶで20こ																			
B	きょうかしのことばをてをうってよむ。																			
A	きょうかしのことばをのーとにうつす。																			
AA	じふんてことばをみつけてのーとにかく。（10こ）																			
B	きょうかしのことばをてをうってよむ。																			
A	きょうかしのことばをのーとにうつす。																			
AA	じふんてことばをみつけてのーとにかく。（10こ）																			
⑦ひらがなのひょうのひみつ P.52～P.53 ひらがなのひょうのひみつをみつつけよう。  <table border="1"> <tr><td>B</td><td>たてによむ。</td></tr> <tr><td>A</td><td>よこによむ。</td></tr> <tr><td>AA</td><td>ひみつをみつつける。</td></tr> </table>	B	たてによむ。	A	よこによむ。	AA	ひみつをみつつける。	⑥「あいうえおであそぼう」P.50～.51 「あいうえおであそぼう」をたのしくよう。  <table border="1"> <tr><td>B</td><td>せんせいのあとについてよむ。</td></tr> <tr><td>A</td><td>ひとりよむ。</td></tr> <tr><td>AA</td><td>じふんて「あいうえおであそぼう」をつくる。</td></tr> </table>	B	せんせいのあとについてよむ。	A	ひとりよむ。	AA	じふんて「あいうえおであそぼう」をつくる。	⑤「を」「へ」をつかったぶんづくり ぶんをよもう。ぶんをつくらう。  <table border="1"> <tr><td>B</td><td>きょうかしのぶんをよむ。</td></tr> <tr><td>A</td><td>きょうかしのぶんをノートにうつす。</td></tr> <tr><td>AA</td><td>じふんて ぶんを 3つずつのーとにかく。</td></tr> </table>	B	きょうかしのぶんをよむ。	A	きょうかしのぶんをノートにうつす。	AA	じふんて ぶんを 3つずつのーとにかく。
B	たてによむ。																			
A	よこによむ。																			
AA	ひみつをみつつける。																			
B	せんせいのあとについてよむ。																			
A	ひとりよむ。																			
AA	じふんて「あいうえおであそぼう」をつくる。																			
B	きょうかしのぶんをよむ。																			
A	きょうかしのぶんをノートにうつす。																			
AA	じふんて ぶんを 3つずつのーとにかく。																			

図8. 特殊音節平仮名マスタービンゴ（筆者作）

一つ一つの単元で、ループリックを作成した。評価はB・A・AAとし、達成したところに色を塗り、全部そろったら大きく○をつけるようにした。

それぞれの特殊音節の授業を以下にまとめる。

1) 濁音

教科書の濁点の文字を○で囲み、点々がふいたらにごった音になることを確かめる。そして、教科書を一緒に音読する。（ループリック B）

かき→かぎ、さる→ざる、まと→まどをノートに写す。（ループリック A）他にこれらのようにすんだ音の言葉から、にごった音に変身する言葉はないか考えさせた。また、濁音の付く言葉をできるだけたくさんノートに書かせた。（ループリック AA）

3) 長音

とても難解である。授業では、長音「あ段」「い段」「う段」「え段」「お段」の5つに分けて指導した。

まず、「あー」と伸ばす言葉は何があるかをみんなで考えた。おかあさんやおばあさんがある。長音の言葉をみんなで集め、黒板に書いた。それを「あ段」「い段」「う段」と整理し、各自で長音のつく言葉集めをさせた。

特に難しいのは、「え段」と「お段」である。「おねえさん」は「え」と伸びる音になるが、「けいさつ」「せんせい」「とけい」などは「い」を伸びる音に使う。

また、お段も難しい。「ろおそく」と読むが、「う」を伸びる音に使う。伸びる音を「う」と書かず「お」と書くのは22個あり、そのうちの7つは、小学校で教える。

これらの言葉は、「遠くの/大きな/氷の上を/多くの/狼/十ずつ/通った」と言いながら、丸暗記する方がよい。

この後も、復習プリントを朝の学習や宿題等で行ったが、なかなか難しそうであった。



図 12. 拗音 (MIM*文献 HP 3)

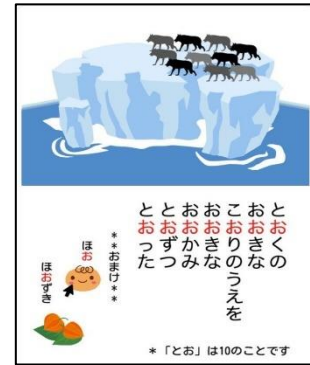


図 13. 特別な長音「お」 (*文献 HP 4)

4) 拗音・長拗音

①拗音

拗音とは「きゃ・きゅ・きょ」のようにねじれた音のことである。ねじれた音の表を使い、きゃ・きゅ・きょ、しゃ・しゅ・しよ、ちゃ・ちゅ・ちよ にや・にゅ・によ・・・と声を揃えて読む。

その後、「きゃ」「きゅ」「きょ」、「しゃ」「しゅ」「しよ」「ちゃ」「ちゅ」「ちよ」と分けて、言葉集めをした。

さらに、「きゅう」「きょう」、「しゅう」「しょう」、「ちゅう」「ちょう」と、長拗音の言葉も集めた。



図 14. 長音 (MIM*文献 HP 3)

特殊音節 ひらがな マスタービンゴ 1ねん ()		
B→A→AAのじゅんにするとかんたんだよ。できたら○をつけよう。AAに○がついたら1ますクリア。いくつビンゴがせうろかな。()		
①かきとかがた(た) P.40-P.41 「か」「が」のつくことばをますたししよう。 B きよしのことばを。 A きよしのじをノールつす。 AA ことばをまけてとににに。(100)	②「が」「は」をつかたぶつづくり P.42-P.43 ふん まもう。ふんをつくらう。 B きよしのことばを。 A きよしのふんをノールつす。 AA ことばをまけてとににに。(100)	③おことば(おことば) P.44-P.45 「つ」のつくことばをますたししよう。 B きよしのことばをうってよむ。 A きよしのことばをうってよむ。 AA ことばをまけてとににに。(100)
④しりとりにあそび しりとりにあそびながらことばをすたししよう。 B ひとりで5こ A ふたりで10こ AA ぐるーぶで20こ	⑤おうち(おうち) P.46-P.47 ねじれたことばをますたししよう。 B きよしのことばをうってよむ。 A きよしのことばをうってよむ。 AA ことばをまけてとににに。(100)	⑥おばさんとおばあさん(おばあさん) P.48-P.49 おばあさん(おばあさん)のことばをますたししよう。 B きよしのことばをうってよむ。 A きよしのことばをうってよむ。 AA ことばをまけてとににに。(100)
⑦ひらがな(ひらがな) P.52-P.53 ひらがなのひょうのひょうをすたししよう。 B ひらがなを。 A ひらがなを。 AA ひらがなをすたししよう。	⑧「あいうえお」(あいうえお) P.50-51 「あいうえお」のことばをすたししよう。 B ことばをすたししよう。 A ひとりで。 AA ことばをすたししよう。	⑨「を」「へ」をつかたぶつづくり ふんをまもう。ふんをつくらう。 B きよしのことばをうってよむ。 A きよしのことばをうってよむ。 AA ことばをまけてとににに。(100)

図 15. 特殊音節平仮名マスタービンゴ(筆者作)

左の図のように、どんどんビンゴが増えていくので、児童も楽しんで授業を受けることができた。

5) 助詞

「は」「が」「へ」「を」の助詞を使えるようになって、文を書くことができる。助詞の中で特に「は」と「を」は「わ」と「お」の音と同じなので、児童は間違いやすい。1年生の1学期に教科書を使って使い方を教えるが、一度で定着しない。よって、一年間かけて繰り返し助詞の指導を行っていく。

「助詞」という表記は難しいので、「くっつきのは」というように読んでいる。それは、ものにくっついて使う文字という意味である。

① くっつき「は」の指導

画用紙に助詞を書き、教室にあるものにくっつけて文作りをする。

最初は教師が例示する。次に児童が棒を持ち、例えば鉛筆けずりを指したとする。その後全員で文を作る。「鉛筆けずりは赤い。」というようになる。

次に文を考えノートに書き、書いた文を黒板に板書し、みんなで読み合った。



写真3. 助詞カード

②「が」「は」をつかったぶんづくり P.42~P.43													
ぶんをよもう。ぶんをつくらう。													
<table border="0"> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">たぬき</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">きつね</td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">は</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">が</td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">おとし</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">はしる</td> </tr> </table>	たぬき	きつね	は	が	おとし	はしる	<table border="1"> <tr> <td style="text-align: center;">B</td> <td>きょうかしのぶんをよむ。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">A</td> <td>きょうかしのぶんをノートにうつす。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">AA</td> <td>じぶん で ぶんを 3つずつのーとにかく。</td> </tr> </table>	B	きょうかしのぶんをよむ。	A	きょうかしのぶんをノートにうつす。	AA	じぶん で ぶんを 3つずつのーとにかく。
たぬき	きつね												
は	が												
おとし	はしる												
B	きょうかしのぶんをよむ。												
A	きょうかしのぶんをノートにうつす。												
AA	じぶん で ぶんを 3つずつのーとにかく。												

図16. 文づくりルーブリック



写真4. 文作りの板書

②「を」の指導

向山(1985)によれば「タオルをバケツの中に入れた、「何をしたのか」と聞くと「入れた」をいう。そこで次のように書いた。(図ア) 子どもたちは、これは変だという。「タオルをいれた」となるというのである。(中略)「タオルを入れた、となればいいのですね」と念を押して「を」の字を書いて

ある画用紙を貼りつけた。(図イ)私は正確に読んだ。

「たおる」と読んで一息入れた。そして「をいれた」と一気に読んだ。子どもたちはゲラゲラと笑った。」(※文献5)

このように、わざと教師が間違い子ども達に正しい答えを引き出させる。その後、「を」を使った文を考えノートに書き、板書して共有する。このように指導しても、クラスで数人はどうしても「を」と「お」の混同がある。毎回、声をかけ直すようにしている。

<table border="0"> <tr> <td style="padding: 5px;">い</td> <td style="padding: 5px;">た</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">れ</td> <td style="padding: 5px;">お</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">た</td> <td style="padding: 5px;">る</td> </tr> </table>	い	た	れ	お	た	る	<table border="0"> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">を</td> <td style="padding: 5px;">い</td> <td style="padding: 5px;">た</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">れ</td> <td style="padding: 5px;">た</td> <td style="padding: 5px;">お</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">た</td> <td style="padding: 5px;">る</td> <td style="padding: 5px;">を</td> </tr> </table>	を	い	た	れ	た	お	た	る	を	<table border="0"> <tr> <td style="padding: 5px;">い</td> <td style="padding: 5px;">た</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">れ</td> <td style="padding: 5px;">お</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">た</td> <td style="padding: 5px;">る</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">を</td> <td style="padding: 5px;">を</td> </tr> </table>	い	た	れ	お	た	る	を	を
い	た																								
れ	お																								
た	る																								
を	い	た																							
れ	た	お																							
た	る	を																							
い	た																								
れ	お																								
た	る																								
を	を																								
(図ア)	(図イ)	(図ウ)																							

図17. 「を」の指導

IV. 特殊音節の特徴と特殊音節指導カリキュラム

1. 清音と特殊音節

清音とは、濁点も半濁点もついていない「かな」のことをいう。

平仮名の文字と音は一対一対応が基本だが、そうでないものを特殊音節という。特殊音節には「拗音」「促音」「長音」「撥音」の4つとその組み合わせがある。

表3. 清音と特殊音節一覧

	直音	拗音
清音	あいうえお かきくけこ さしすせそ たちつてと なにぬねの はひふへほ まみむめも や ゆ よ らりるれろ わ	きゃ きゅ きょ しゃ しゅ しょ ちゃ ちゅ ちょ にゃ にゅ ньо ひゃ ひゅ ひょ みゃ みゅ みょ りゃ りゅ りょ
濁音	がぎぐげご ざじずぜぞ だぢづでど ばびぶべぼ	ぎゃ ぎゅ ぎょ じゃ じゅ じょ ぢゃ ぢゅ ぢょ びゃ びゅ びょ
半濁音	ぱぴぷぺぽ	ぴゃ ぴゅ ぴょ

金田一（1967）によれば、これらの上に、促音【っ】長音【ー】撥音【ん】が加わり、日本語の音は全部で130-140種類あると言われている。（*文献6）

1年生は直音の清音から平仮名を教える。その後、濁音→半濁音→促音（きって）→長音（おばあさん）→拗音（おもちゃ）→拗長音（ぎゅにゅう）の順に1学期の内に教える。清音は、どの子もほぼ読み書きができるようになるが、特殊音節の平仮名は、難しく教科書通り教えても一度では覚えられない子どもが多くいる。

2. 日本語の音韻的特徴

1) 音節とモーラ

音節とは、発音するときの音の単位で、日本語では音は母音によって発せられる。母音の数が音節の数となる。

日本語のリズムの基本的な単位を、拍（はく）またはモーラと言う。1拍は同じ時間的な長さを持つ。基本的には1文字1拍。ただし、「っ」「や」「ゆ」「よ」「ん」は、前の文字と2文字で1拍となる。

2) 音節とモーラの対応表

深川（2021）によれば、音節とモーラの関係が以下にまとめられている。（*文献7）
これを見れば、文字と音（拍、音節）の対応関係がわかる。

表4. 音節とモーラの対応表

	文字	単語例	拍（モーラ）	音節
直音	清音、濁音、半濁音	めがね	3モーラ	3音節
		ゆきだるま	5モーラ	5音節
撥音	「ん」	かん	2モーラ	1音節
		まんが	3モーラ	2音節
		しんかんせん	6モーラ	3音節
促音	「っ」	きって	3モーラ	2音節
		ホットドッグ	6モーラ	4音節
長音	あ行の音の変化	おとうさん	5モーラ	3音節
		おねえさん	5モーラ	3音節
		ほうき	3モーラ	2音節
拗音	「ゃ」「ゅ」「ょ」	きゃべつ	3モーラ	3音節
		きゅうり	3モーラ	2音節
		ケチャップ	4モーラ	3音節
		ジェットコースター	8モーラ	5音節

3) 特殊音節を書く際、間違える原因はなにか

表5を見てわかるように、直音は「拍（モーラ）」と音節の数が同じである。つまり、発音するときの音と拍が同じなので、書き間違えることがない。しかし、音がない特殊拍である「撥音」「促音」「長音」「拗音」は、聞こえるまま（音節）で子どもは言葉を覚える。そして、聞こえるとおりに、自分が言っているとおりに文字で置き換えて書くために「っ」が抜けたり、長音表記の「う」が抜けたり「ん」が抜けたりする。

だから、拍を打って言葉を言い、見えない音を視覚化することが大切なのである。

誤答例としては、「おとうさん」と書くところ「おとさん」、「がんばった」と書くところを「がんばた」としてしまうのである。

表5. 言葉を例にした音節とモーラの関係


文字 (聞こえ) おとうさん 5文字			文字 (聞こえ) がんばった 		
音節	o toh san	3音節	音節	gan bat ta	3音節
拍 (モーラ)	o to h sa n	5拍 (モーラ)	拍 (モーラ)	ga n ba t ta	5拍 (モーラ)
※「っ」「ー」「ん」はそれだけでは存在しないが、1拍（モーラ）と数える。			※拍の数 = 音節の数 + 特殊拍の数 (モーラ数)		

表 6. い段のみ拗音ができる仕組み

いだんの直音	き	し	ち	に	ひ	み	り	ぎ	じ	ぢ	び	ぴ
あだんの ねじれた音	きゃ	しゃ	ちゃ	にゃ	ひゃ	みゃ	りゃ	ぎゃ	じゃ	ぢゃ	びゃ	ぴゃ
うだんの ねじれた音	きゅ	しゅ	ちゅ	にゅ	ひゅ	みゅ	りゅ	ぎゅ	じゅ	ぢゅ	びゅ	ぴゅ
おだんの ねじれた音	きょ	しょ	ちょ	にょ	ひょ	みょ	りょ	ぎょ	じょ	ぢょ	びょ	ぴょ

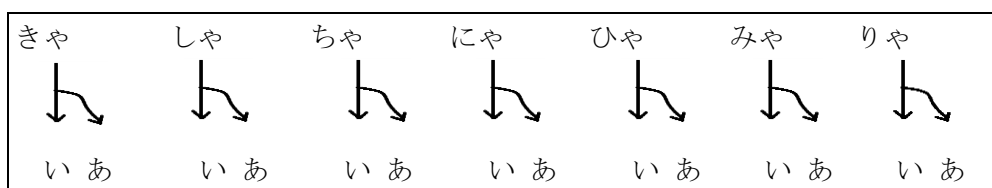


図 20. 拗音のきまり

3. 1年生 国語「平仮名指導」単元指導計画(*文献 11)

平仮名指導に関係のある内容について単元指導計画にまとめた。1学期国語 87 時間中、平仮名指導関連は 29 時間+平仮名のおけいこ帳 20 時間程度で合計 50 時間行っている。

表 7. 小学校 1 年生国語 1 学期単元計画 (特殊音節関連を記載)

月	◆単元名・教材名・◎指導目標	時数	主な学習活動
4月	◆かくことたのしいな ◎平仮名を読み、書くことができる。 ◎正しい姿勢や鉛筆の持ち方を意識して書く。	1	①正しい鉛筆の持ち方や正しい姿勢に気をつけて挿絵をなぞる。 ②一画の平仮名「く」「つ」を書く。 ワークブックを使って練習する。 ※46文字を約1ヶ月かけて清音46文字を教える。(約20時間)
5月	◆ことばを さがそう ◎音節と文字との関係に気づくことができる。 ◎身近なことを表す語句の量を増やし、語彙を豊かにすることができる。	2	①手を打ちながら1音節1文字であることに気づき、2文字3文字4文字の言葉等があることを知る。 ②「あ」「い」「う」「え」「お」など既習の平仮名で始まる言葉集めをする。 ③これまでに習った文字を使って言葉を見つけて、ノートに書く。
	◆かきとかぎ ◎平仮名を読み、書くことができる。	2	①唱え歌読み、濁音に気づく。 ②濁音の有無を確認する。 ③清音と濁音の平仮名をノートに書く。

V. 研究の結果

現行の教科書カリキュラムでは、清音の平仮名学習後、すぐに特殊音節の平仮名を1学期に教えることになっている。このカリキュラムでは、子どもたちへ特殊音節の平仮名が定着しきれない。実際、2023年の調査によると夏休み明けのテストで最大64%の誤答率であった。その後MIMプリント（筆者が自己採点可能に編集）を使い補充を行い、さらに点数の低い児童には個別指導を行うことで11月の調査では最大39%まで誤答率が下がった。

調査した特殊音節のある言葉の正答数は、8月は318個で正答率は59.7%、11月は442個で83.0%まで上がっている。この結果からも、継続して特殊音節に触れ、練習を繰り返すことが定着のために必要であることがわかる。

さらに、2024年度の1年生には筆者が考えた「特殊音節平仮名マスタービンゴ」を使うことで教科書教材に、より主体的に取り組むことができた。

また、筆者が特殊音節の仕組みを研究したことにより、昨年度よりわかりやすく子どもたちに教えることができた。

VI. 終わりに

前回の令和5年度は、清音の平仮名指導を中心に論文をまとめた。

今回は特殊音節の平仮名指導に特化し、なぜ特殊音節は難しいのかを調べ、またどうしたらわかりやすく教えることができるのか指導法をまとめた。

特殊音節が難しいのは、日本語の音韻と関係している。清音は、文字と音が一対一対応であるが、特殊音節はそうではない。促音の「ねこ」と「ねっこ」でみると、「っ」は、拍はあるが音はない。聞こえない音の理解が難しいのである。長音や拗音も同じく、言葉の「文字数」と「拍」と「音節」が一致しないことにより、指導が複雑になるのだ。

それらを回避する方法として、「音を視覚化」することがあげられる。言葉集めをした後、促音がでたら手をぎゅっと握る動作で、聞こえない音を表現したり、長音が出たら、手を合わせて下に引っ張る動作で伸びる音を表現したりする。

こうして、特殊音節の平仮名が出たときには、毎回手を使って音を動作化するようにした。

また、多層指導モデルMIMのプリントで調査を行うことで、指導前と指導後の定着度も図ることができた。さらに2024年度には教科書が新しくなり、それらの指導計画に則って「特殊音節ひらがなマスタービンゴ（ループリック）」を試作し、実施した。「ビンゴ」という遊びを取り入れることで子どもたちは興味を持って特殊音節の平仮名を学習していった。今後も、定着しきれない特殊音節を、1年間かけて継続しながら指導していく。

文献

- 1 武田契一(2010):読み書きが苦手な子どもへの〈つまずき〉支援ワーク、明治図書 6~15
- 2 海津亜希子(2016):多層指導モデルMIMアセスメントと連動した効果的な読みの指導、学研 81 付属CD-ROM
- 3 多層指導モデルMIM HP、<https://www.gakken.jp/dc/MIM/>(参照:2024-8-14)
- 4 komiru:「お」を使う語句、<https://x.com/komirustudy/status/1556628381294526464/photo/1>(参照:2024-8-14)

- 5 向山洋一 (1985) : 教師であることをおそれつつ1年生の学級経営、97 明治図書
- 6 金田一春彦 (1967) : 日本語音韻の研究、60、117、122～123 東京堂出版
- 7 深川美也子 (2021) : 就学前から1年生の平仮名の土台作り「音韻意識」と発達保障
19 文理閣
- 8 大阪府教育センター「言葉の学びについて」、<https://www.osaka-c.ed.jp/katano-sb/kitakawati/kita-kotoba-setsumei.html> (参照: 2024-10-20)
- 9 発達障がい支援 よつば COLORS ブログ(2021):音から文字へ ～音韻認識とは! ? ～、
<https://yotsuba-juku.com/blog/3861> (参照: 2024-8-14)
- 10 須田 清 (1967) : かな文字の教え方、8、36、168～179 185 むぎ書房
- 11 年間指導計画・評価計画資料 1年 年間指導計画例、chrome-extension://efaidnbmnnnibpcajpcglclefindmkaj/https://assets.mitsumura-tosho.co.jp/5917/1031/2528/06s_k_nenkei1_03.pdf (参照: 2024-8-14)
- 12 向山洋一(1997) : 向山洋一年齢別実践記録集 22「初めての1年生担任」、38～43 東京教育技術研究所
- 13 向山洋一(2002) : 教え方のプロ・向山洋一全集 5 入門期の国語授業、42～64 明治図書
- 14 向山洋一(2002) : 教え方のプロ・向山洋一全集 31 熱中する授業は「授業の原則」
に貫かれている、149 明治図書
- 15 天野 清 (1985) : 子どものかな文字の習得過程、21～37、71、81 秋山書店
- 16 永原光児 (1992) : 障害児に学ぶ文字指導、40～46 164～183 220～250 エイデル研究所
- 17 青木冴子 (1972) : 幼児の感覚教育、195～209 明治図書
- 18 明星学園・国語部(1964) : にっぽんご1もじのほん、むぎ書房
- 19 竹田契一 (2011) : 読み書きが苦手な子どもへの〈基礎〉トレーニング、明治図書
- 20 山口 諤司 (2016) : 〈ひらがな〉の誕生、153～158 KADOKAWA
- 21 馬淵 和夫(1993): 五十音図の話、10～177 大修館書店
- 22 小枝達也 (2022) : T式ひらがな音読支援の理論と実践、14 中山書店
- 23 河原紀子 (2018) : 0 際～6 歳子どもの発達と保育の本、46、58、68、78、84 Gakken
- 24 相良敦子(2006) : ひとりのできた、サンマーク出版
- 25 下村昇 (1984) : 幼児は文字を書きたがっている、39～43 偕成社
- 26 津守真稲毛教子 (1961) : 津守・稲毛式 乳幼児精神発達診断、0～3歳 3～7歳
- 27 タグチトモコ (2019) : 日本語母音発音みえる化シート、 合同会社ことばのとり
- 28 長岡由記 (2011) : 小学校入門期におけるひらがな教育の研究、6～11 34～36 広島大学
大学院学位論文
- 29 丸山美和子 (1999) : 教科学習のレディネスと就学記の発達に関する一考察、197～202
社会学部論集 32 号
- 30 ATTANAYAKE Priyanthika (2013) : 日本の国語教育における五十音図の役割、50～70
名古屋大学大学院文学研究所学位申請論文
- 31 文部科学省 (2018) : 小学校学習指導要領 (平成 29 年告示) 解説国語編、東洋館出版社
- 32 文部科学省 (2018) : 幼稚園教育要綱 (平成 29 年告示) 東山書房
- 33 厚生省 (2019) : 保育所保育指針(平成 29 年 3 月 31 日)フレーベル館